

中海で今年初めて赤潮を確認しました

—毒性種は確認されませんでした。—

国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所が管理する宍道湖～境水道の区間内で、今年初めて赤潮を確認しました。

【赤潮確認状況】

確認月日：令和元年5月8日（水） 河川巡視において赤潮を確認。

確認場所：揖屋承水路付近（別添のとおり）

発生種：プロロケントルム ミニマム

今後の対応：引き続き、国土交通省において状況監視を行うとともに、関係機関と情報共有します。今後の赤潮に関する情報はウェブサイトでお知らせします。

URL：http://www.cgr.mlit.go.jp/izumokasen/shiryokan/aoko/h31_R1/akashioindex.html

プロロケントルム ミニマムは、毒性はありません。

※赤潮とは、水中のプランクトンが異常増殖することで、水面が着色する現象です。

※様々な環境要因（窒素・リンの増加に伴う水域の富栄養化、海流等による水域への赤潮原因種の移入、日照、水温、塩分濃度など）が赤潮原因種にとって好適なものになるとプランクトンが大増殖を引き起こし、赤潮が発生すると考えられています。

※中海では、富栄養化現象として赤潮（プランクトンの異常増殖）が毎年確認され、時期は概ね10月から翌年5月に集中しています。

※赤潮による影響としては、大量に出現したプランクトンが死滅し、腐敗・分解されることによる水質悪化、大量に出現したプランクトンによる鰓づまり、一部の赤潮原因種が生産する毒性物質（すべての赤潮原因種が有毒ではありません）による魚介類の斃死などがあります。

※中海においては赤潮による魚介類の斃死等の影響は現在まで確認されておりません。

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所
計画課（河川環境室）

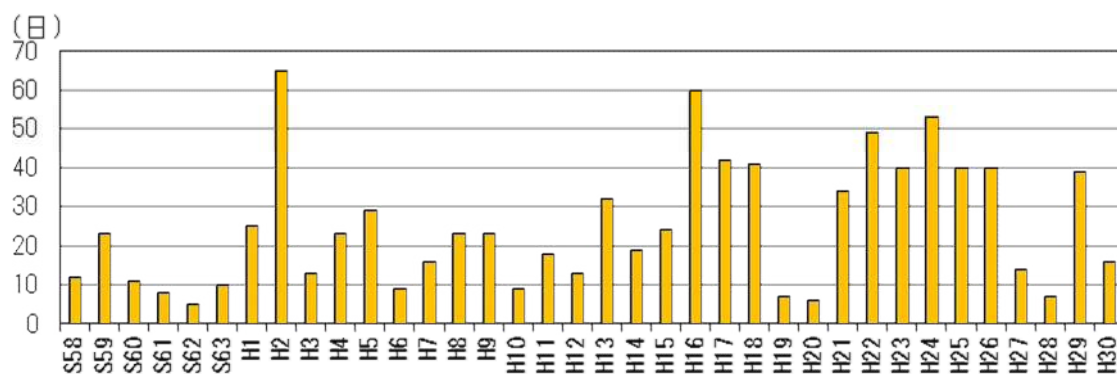
電話 0853（20）1763（直通）

副所長 村松 清

【担当】河川環境室長 山形 勝巳

(別添)

中海における近年の赤潮発生状況



※河川巡視等で確認した日数を集計

赤潮範囲図

